

イクメンパパ ~子育て奮闘中~



池 弘樹 さん

東陽小学校区在住

子ども
女の子 8歳 男の子 5歳

- Q1 子どもが生まれた時のパパの気持ち？
パパになるんだという実感が、すぐには湧きませんでした。共に過ごしていくうちに子育ての大変さを感じるようになってきました。
- Q2 どのようなパパ育児をしていますか？
掃除、洗濯、料理等をしなが、子ども達と三人で公園でサッカーをしたり、散歩をしたりするなど、よく遊ぶようにしています。
- Q3 子育てで、嬉しいことはどんなこと？
できなかったことが、できるようになった時が嬉しいです。成長を共に喜び合えるのは大きな喜びです。
- Q4 ママへ
いつもおいしいご飯を作ってくれてありがとう。瓦そば、うどん、みんなが大好きなカレーは最高においしいです。
- Q5 子ども達へ
自分が好きだと思ふことを一生懸命してほしい。二人をいつも見守っているよ。

こんにちは 下松市青少年育成協議会です

花岡公民館区 青少年健全育成連絡協議会 を紹介します。

花岡公民館区青少年健全育成連絡協議会です。花岡地域の青少年が安全に過ごせることを目的に、昭和61年11月に発足しました。現在は25の団体が構成されています。

主な事業は4月に花岡駅・生野屋駅にてクリーンアップ運動を、12月には華陵高校野球部および花岡の団体とカープミラーの清掃を行っております。また、会報誌『おあしす』を年2回発行しております。

今年度は12年ぶりに標語コンクールを開催し、11月20日に花岡小学校にて表彰式を行いました。



皆様からの情報をお待ちしております。
下松市教育委員会 生涯学習振興課 星の子ネット
shakyou@city.kudamatsu.lg.jp (担当: 吉開・藤本)

お電話・ファックス・メールでもどうぞ...
TEL.0833-45-1870
FAX. 0833-45-1865

募集 星の子ネット
ボランティアスタッフ
取材や情報誌編集など
私たちといっしょに
活動してみませんか？

詳しくは下松市教育委員会 生涯学習振興課 星の子ネットまでお気軽にお問い合わせください。

星の子ネット情報誌

ねえ

名前はキラッチだよ



2023 春
Vol.44

たち がた はにわ 復元された大刀形埴輪

復元全長は120cmの大型の埴輪です。茶色の部分が、土の中から見つかりました。鞘(刀をおさめておく筒)に入れられた状態の大刀を表現しています。

西日本ではそれほど出土例が多くなく、近畿地方より西の地域で全形が復元できた例は初めてで大変貴重です。

約120センチメートル

土の中からたくさんの埴輪が見つかったよ。
今回、復元した大刀形はどれかなあ

知ってる？

下松で 約1500年前の お宝発見

天王森古墳から、
大変めずらしい、
貴重な埴輪が出土～

大刀形埴輪以外にも、盾、家、巫女、力士などの形をした埴輪が20体以上見つかりました。これは形象埴輪と呼ばれる珍しい埴輪で、山口県でこれだけ多く見つかるのは初めてです。

えん どう はにわ 復元された円筒埴輪



約40センチメートル



茶色の部分が土の中から見つかりました



答:★のマークがついているのが今回復元した大刀形埴輪

～たくさんの埴輪が、出土した天王森古墳とは？～

今から約1500年前・6世紀前半(古墳時代後期)に造られたとされる前方後円墳です。下松市は、かつて「都怒国(角国、都奴国、つめのくに)」と呼ばれていた地域で、ヤマト王権と関わりを持っていたと考えられています。

その首長の墓が天王森古墳で、西に末武平野、南に笠戸湾を望むことのできる丘の上にあり、末武平野や笠戸湾を中心に繁栄した都怒国の最盛期の頃の古墳と考えられています。

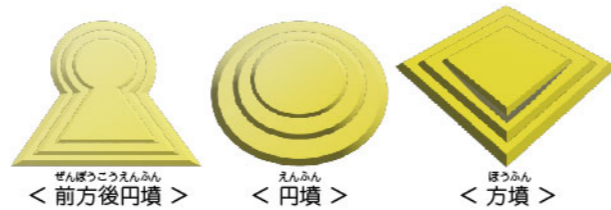


全長は約45m(それ以上の可能性も)、後円部の高さは約5mです。平成29年には、市の文化財(史跡)に指定されています。



古墳とは？

3世紀後半から約400年の間、土を高く盛り上げた墳丘をもつお墓(墳墓)が盛んに造られました。この時代に造られた墳丘をもつお墓を「古墳」といい、古墳は当時の強い力をもった人のために造られました。墳丘が2段・3段になっているもの、形は「前方後円墳」・「円墳」・「方墳」などバラエティ豊かで、大きさも長さが数mのものから400mを超える巨大なものまでさまざまです。



埴輪って何？

埴輪は古墳の上や周りに並べられた素焼きの土器です。古墳の飾りや、死者をまつるためにつくられたと考えられています。

最初は円筒形でしたが、徐々に人や動物や家などを形取ったものもつくられました。埴輪からは、あまりわからない昔の人の生活や様子を知ることができます。天王森古墳からは大刀・盾・家・巫女・力士などの埴輪が見つかりました。

埴輪のつくりかた

- ①材料(粘土・砂)を調達する。
- ②土をこねて粘土にする(粘りを出す)。
- ③粘土でひもをつくる。
- ④上へ重ねていき形をつくる。
- ⑤木べらのようなもので表面をこすり平らにする。
- ⑥1ヵ月ほど日陰で干して水気を取り、火に入れて焼く。

当時は埴輪づくりを仕事にしている埴輪工人がいたみたい。



そのころの衣食住

どんな服そうをしていたの？



男性
髪 左の男性は「みずら」といって髪を左右で結んだ髪形だよ。
服そう 豪族は「きぬはかま」といって上下にわかれ、手首、ひざ下をひもで結んでいるゆったりファッションだったよ。



女性
髪 髪を結んだり、たらしたり、ハチマキをしたり、いろいろだったみたい。
服そう 豪族は「きぬも」といって上下にわかれていて、下は巻きスカートになっていて、肩にはスカーフのような「ひれ」というものをあはっていたよ。

身分の差で服装も異なるみたい。身分の高い人は金やひすいや水晶でできた首飾りなどをしていたみたい。

何を食べていたの？



どんな家に住んでいたの？



※イラストはすべてイメージです。

市の担当者に発掘の様子を聞きました。

Q1なぜ、埴輪が見つかったのでしょうか？

宅地の開発に伴い天王森古墳周辺の工事をしていて、土の中から見つかりました。

Q2.発掘のときの様子は？

天王森古墳は、これまで本格的な調査はされていなくて、埴輪も確認されていませんでした。カケラくらいは出土するかもしれないと思っていましたが、一部が見えた後、手掘りで進めていくうちにたくさん出土し大変驚きました。古墳前方部の外側と、造り出し部分の外側を2m～3mの深さで掘りました。出土した埴輪を専門家の人に見てもらったところ、珍しいものが出土したと言われていました。

Q3.出土した埴輪はどうなりますか？

これから、復元していきます。下松市の宝物として多くの方々に見ていただきたいと思います。

Q4.今回復元した大刀形埴輪はどこで見られますか？

市役所の1階ロビーに展示してあります。

天王森古墳以外の市内古墳から出土した埴輪は、「島の学び舎」や「地域交流センター」でも見ることができます

